

地域に残す資源探る

学生らお年寄りに質問

西米良

九州の大学や大学院で、景観やまちづくりを学ぶ学生が、お年寄りとの会話から地域に残すべき資源を探る「思い出NAVI」プロジェクトが13、14日、西米良村上米良地区であった。建設コンサルタンツ協会九州支部の事業で、同村では昨年の小川地区に続く第2弾。学生ら31人が参加し、高齢化が進む同地区の活性化策を探った。

上米良地区は人口115人(58世帯)で、高齢化率約47%と過疎化が進んでいることから、今回の事業対象に。宮崎大や九州大、熊本大など五つの大学、大学院から学生が泊まりがけで参加した。

学生らは、残したい地区の



西米良村上米良地区のお年寄りと話し、地区の昔話を聞く学生たち

た敷地にある大きな石を使った石積やおとりアユを使った友釣りを推すお年寄りも。紹介したいスポットには一ツ瀬川や米良三山などが挙がった。熊本大工学部社会環境工学科4年の中村康佑さん(22)は「『自慢できるものはない』と言っていたお年寄りも、話をすると多くの地域資源が話題に出てきた」。学生の訪問を受けた間ミフミさん(92)は「普段は若い人と話す機会が少ないので、楽しかった」と笑顔を見せた。

名所や伝統芸能を質問。残したいものには、上米良小跡で、後に宿泊施設・米良の里(現在は閉鎖)として使用され